

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日平成 21年 4月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	4071901153		
法人名	株式会社 ケアスピリット		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地 (電話番号)	田川郡大字伊田426番地 (電話) 0947-42-8830		
評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年4月28日	評価確定日	平成21年6月4日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR伊田駅より徒歩10分、周囲をのどかな田園風景に囲まれた場所に「グループホーム やすらぎ」は位置している。ゆとりある広さの共用空間は清潔感・住みやすさ・安全な暮らしに十分に配慮された造りとなっている。また居室から直接、ウッドデッキ・芝生の庭へと出ることができ、四季折々の変化を感じることができる。個別ケアの実践と、安心かつ健康的な生活が継続できるように、健康管理による自立支援に力を入れており、入居者一人ひとりの、その人らしい日々の暮らしを柔軟に支援している。

【情報提供票より】(21年4月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	11 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	(水道・光熱費) 15000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150000円)	有りの場合 償却の有無	有(5年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(4月28日現在) 認定中2名

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 77歳	最低	64歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険田川病院・田川市立病院・金子内科医院・すみれクリニック
---------	---------------------------------

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題として、地域との連携・家族との関わりについての具体的な取り組みが行われている。同業者交流についても検討をおこない、働きかけを行う予定となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	同法人の小規模多機能型事業所との合同により、運営推進会議を開催している。家族・市町村担当職員・地域住民の代表・事業所の代表・管理者等の参加があり、ホームの行事や消防訓練の計画と報告、地域からは地域行事の案内など相互での意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	要望箱や苦情対応委員会を設置し、「苦情は宝」として受け止め、速やかな対応を心掛けている。意見や苦情があった場合はミーティングにて報告し、職員全員で話し合いを行い、解決に向けて取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所として、また入居者への橋渡し役として、職員による老人会やお祭り、地域の清掃活動への参加が行われており、地域住民のホーム行事などへの訪問により相互の交流を育んでいる。今後は入居者の地域行事への参加や、地域への貢献としての情報発信を課題として検討を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人代表者はグループホーム開設にあたり、入居者の尊厳と自立を本人の立場になって考え、その思いをわかりやすい言葉で「人間らしく、自然のままに、地域と共に」と示し、事業運営の基本理念としている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	職員採用時に理念に込められている思いを伝えるとともに、目に付きやすい所に掲げ、入居者との日々の暮らしの中で常に振り返れるように、理念の実践に向けて職員全員で取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	事業所として、また入居者への橋渡し役として、職員による老人会やお祭り、地域の清掃活動への参加が行われており、地域住民のホーム行事などへの訪問により相互の交流を育んでいる。今後は入居者の地域行事への参加や、地域への貢献としての情報発信を課題として検討を行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
4	7	評価の意義の理解と活用	前回の評価結果は運営推進会議にて報告し、改善に向けて具体的に取り組んでいる。家族へ入居者の日頃の暮らしぶりを手紙にして報告し、好評価を得ている。地域との交流についても、地域行事へ職員が参加することから取り組み、今後につなげていきたいと考えている。今回も職員全員で自己評価を行い、意識を新たにしている		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	同法人の小規模多機能型事業所との合同により、運営推進会議を開催している。家族・市町村担当職員・地域住民の代表・事業所の代表・管理者等の参加があり、ホームの行事や消防訓練の計画と報告、地域からは地域行事の案内など相互での意見交換が行われている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市町村担当者とは、運営上の相談や困難事例等への対応などについて連携を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在制度を活用している入居者がおり、支援を行っている。今後も日常生活自立支援事業や成年後見制度についての学習を重ね、必要に応じた支援ができるように努力したいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
8	14	家族等への報告	前回評価以降の取り組みとして、毎月家族へ入居者の日々の暮らしの様子を綴った手紙を送付している。家族からは状況を理解しやすいと好評を得ている。状況の変化があった場合は速やかに連絡を行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	要望箱や苦情対応委員会を設置し、「苦情は宝」として受け止め、速やかな対応を心掛けている。意見や苦情があった場合はミーティングにて報告し、職員全員で話し合いを行い、解決に向けて取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	離職や異動については、結婚退職以外ほとんど行われていない。やむをえず発生した場合は、十分に引き継ぎを行い、入居者への影響が最小限となるように配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員採用時には人柄や介護への情熱を重視しており、年齢や性別等を理由に対象から排除していない。職員の自主性を重んじ、レクリエーションや調理、文書作成などそれぞれの得意分野で十分な能力が発揮できるように配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	基本理念にも入居者に対する人権の尊重の思いが込められており、理念の共有や実践が、人権教育・啓発活動につながると考えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員の経験や能力に応じた研修参加を促し、必要に応じて勤務調整等の支援を行っている。		ミーティングや会議などが積極的に行われており、研修にもなっていると思われます。限られた職員体制の中で難しい面もあると思いますが、年間計画の中で研修を位置づけることにより、より効果的な職員育成につながると考えます。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	認知症病棟を持つ医療機関との交流や勉強会への参加、また福岡県グループホーム協議会の研修に参加している。地域における同業者交流について今後積極的に取り組む予定としている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族の希望や状況に応じた対応を行っている。本人・家族への十分な説明の時間を設け、見学や体験入居など、一人ひとりのペースに配慮し、安心して納得して入居できるように柔軟に支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	本人が意欲や自立心を失わないように、見守りやさりげない支援に努めている。また業務優先とならないように、入居者の方々と過ごす時間を何よりも大切に考えている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	理念をもとに、一人ひとりの個性を大切に個別ケアに力を入れている。生活歴の把握や家族との情報交換を充分に行い、日々のケアへ反映させるように努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	思いや意向の把握に努め、関係者全員で話し合いを行い、また日々の暮らしの中で確認を行いながら、一人ひとりがその人らしく、安心して過ごせることを大切にしながら介護計画作成に努めている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	入居時の情報や計画について、1ヶ月前後で検討を行い、必要であれば見直しを行っている。通常は3ヶ月に1回、または必要時に見直しを行い、その都度本人・家族・関係者と話し合いを行っている。心身の変化を見落とさないように、また入居者本位の計画作成に努めている。		入居者一人ひとりの心身の状況について、細やかに話し合いが行われている。記録の整理の工夫により、さらに充実したケアの実践や介護計画見直しに活かされて行くと考えます。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療連携による健康管理や受診支援を行い、日々のその人らしい生活の維持に努めている。個別の外出(美容院・買い物など)への支援にも、できるだけ対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	近隣のかかりつけ医の診療以外にも、専門医等への受診についても、本人・家族の意向を大切にしている。かかりつけ医と看護師・職員の連携も緊密に行われ、夜間への対応も行われている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に、重度化や終末期への対応の指針について説明を行っている。今後は、本人・家族の意向を大切にしながら、家族・協力医療機関・職員の連携により、看取りの体制づくりに取り組みたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	人格を尊重し、日々の関わりの中で、一人ひとりに温かな眼差しでケアに取り組むことを心掛けている。記録や個人情報についても、法令遵守に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の方々が、ゆったりと思いつきのペースで過ごせるよう、個別の支援を実践しており、健康維持や自立支援につながるよう支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の希望や旬の食材を取り入れた献立により、季節を感じながら楽しんで食事をしている。調理専門の職員がおり、入居者は調理準備や後片付けに、それぞれ自由に参加している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週3回の入浴を基本としている。2ヶ所に浴槽がある広い浴室があり、また床暖房等の設備が充実しており、ゆっくりと本人のペースで入浴を楽しんでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	ラジオ体操や歩行訓練を楽しみながら行えるように、工夫しながら支援している。小物作り・編み物・絵を描く・カラオケ・家事の手伝いなど、個々の得意分野を活かして、一人ひとりにあった楽しみごとや役割となるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	敷地内に広い庭があり、戸外に出やすい環境にある。日常的に散歩や買い物などへの外出を行い、季節感を肌で感じてもらっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員の見守りの徹底や、センサーの設置により安全面に配慮しながら、日中鍵をかけない支援を行っている。一人ひとりの心身の状況についての申し送りを徹底し、行動把握に努めている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	防災計画に沿った訓練を定期的実施している。災害時に連携体制がとれるように、地域区長を通じて近隣住民に呼びかけている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
が今後の課題で					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養バランスやカロリー量に配慮された丁寧なメニューを作成し、食べやすい工夫を行う等、全量摂取へ向けての支援を行っている。食事・水分摂取量や体重の記録を行い、健康管理につなげている。今後は栄養士による点検指導を予定している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ゆとりある広さを持つ共用空間は、明るく清潔感にあふれている。和室には入居者の写真や作品、季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。窓から見渡せる庭には、季節の草花・菜園・植木などがあり、季節を感じる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	使い慣れた家具類や家族の写真により、居心地よく過ごすための工夫がみられる。折り紙が好きな方は部屋中に作品(鶴や花など)が飾っており、趣味にいそんでいる様子がうかがえる。居室から一人ひとりの生活歴が伝わるような、個性あふれる部屋作りを行っている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			